

令和7年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	11	学校名	静岡県立藤枝特別支援学校	記載者	鈴木 ゆかり
------	----	-----	--------------	-----	--------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己評価	関係者評価	意見
ア 安全・安心	命を守る危機管理体制の整備と共有	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時での自身の役割が分かり、具体的な行動を考えた教職員 100% ・担当する医ケア児の災害時の用具の保管場所や扱い方についての研修に3回以上参加し、理解した参加者 100% ・ヒヤリハットを担当する活動場面に置き換えて対応を考え実践した教員 100% 	A	A	<p>医療的ケア児童生徒の「一日の生活シート」や、ヒヤリハットの共有は医療過誤を防ぐために有効である。</p> <p>避難訓練等について、学校ができることを明確にし、具体的な対応を検討したい。</p> <p>細かな学校安全計画が作成されており、保護者が安心して児童生徒を預けることができる。</p> <p>児童生徒及び教職員のことを第一に考えた取組を行っており、結果に表れている。</p> <p>人工呼吸器の学校管理は保護者負担軽減につながる取組である。</p>
	教職員一人一人の人権意識の向上と学校風土の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒にとって手本となるような呼び方（さん付け）や口調、対応が常に人権を尊重したものになっている教職員 100% 	A	A	<p>児童生徒への呼び方はさん付けで徹底されており、教職員が児童生徒の手本になっていると感じる。</p> <p>日頃の挨拶がしっかりしており、口調も優しく指導している。</p> <p>障害のあるなしに係らず自己及び他者理解や共に認め合うことを学びに取り入れていることがすばらしい。</p>
	自己肯定感や人権意識の高い児童生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画に基づいた人権教育を実施した教員 100% ・自分や友達が互いに大切な存在であることを学ぶ機会を設定した教員 100% 	A	A	<p>具体的な内容について、質と量の拡大化の検討が必要である。</p> <p>教職員が児童生徒の人権を意識し、個々に合った対応をしていると感じる。</p>
	学習環境の整備と安全点検	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検、スクールクリーン等を効果的に活用し、安全な教育活動や職場環境の整備のために行動した教職員 100% 	A	A	<p>細部にわたり、危険個所の確認がされており、事故防止に努めている。</p>

イ 授業	個別の教育支援計画と個別の指導計画に基づいた授業実践	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の根拠ある実態把握、目標設定、達成するための具体的な場面を共通理解して、その目標達成に向けて取り組んだ教員 100% ・各教科を合わせた指導の評価を実施した教員 100% ・短縮週間を使って各教科等を合わせた指導の授業のために、教材研究等の授業準備や個別の指導計画の作成、記入、見直し等の時間を確保した教員 100% 	A	A	<p>教師が無理をして体調を悪くしたり、なり手が減ったりすることで困るのは児童生徒である。児童生徒のために無理のない持続可能な形での指導を強く望む。</p> <p>夢を語り、夢を持たせる教育指導を期待する。</p> <p>短縮週間の位置づけについて明確にすることが必要である。</p>
	教職員の専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・教材教具や ICT 機器を、実態を考慮し効果的に活用した教員 100% ・自己の学びの目的を明確にして各種研修等に参加することで、キャリアステージに応じた資質向上につなげた教員 100% 	A	A	<p>ICT活用については、とにかく回数を重ね慣れることが大切である。ICT活用は、障害のある児童生徒にとって健常者とのギャップを埋めるものであり、共生社会に向けた取組である。破損等のリスクを考えると、使用時期の検討も必要である。</p> <p>研修による成果として専門性の向上が明確である。ワークライフバランスの状況も概ね良好であるが、一部の職員への業務の偏りを最小限になるよう努力する必要がある。</p> <p>生成 AI の活用により業務の効率化が期待できる。</p>
ウ 連携	学習と経験のつながりを意識したキャリア教育の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育の手引き」を活用して生活年齢に応じた授業(日生、特活、道徳等)を行った担任 90%以上 ・懇談会や支援会議等の資料として「キャリア教育の手引き」を効果的に活用した学年主任 100% 	A	A	<p>手引きの活用により、これまで教員が積み上げてきた経験の共有につながると考える。</p> <p>学習会の実施は、教員と保護者がつながる機会として有効である。</p>
	地域資源を活用した共生社会の実現を目指し、保護者、関係機関、地域との連携・協働体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・交流関係者(相手校・保護者)が目的を理解して実施、参加し、その後の保護者に対して地域での活動の紹介をした教員 90%以上 ・本校の良さを理解して 	A	A	<p>個人情報の扱いは慎重に行うべきであるが、Instagram等で情報を発信することにより地域との連携が進むことが期待される。活動のより積極的な発信に期待する。</p>

様式第5号

		<p>もらうための工夫をして、効果的に発信した教職員 90%以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会制度への理解が深まった教職員 100% ・地域とつながる授業を年間指導計画に位置付け、実施した学年主任等 90%以上 		<p>I C T活用により、交流の機会が増すことを期待する。</p> <p>地域人材の積極的な活用により、よりよい学校づくりを目指してほしい。</p> <p>交流関係者及び保護者に対して常に誠実に対応している。</p> <p>地域参加の継続的な取組を期待する。</p>
--	--	--	--	--